

## [ 鍼灸の治療原則 ]

### 1. 補虚と瀉実

疾病 { 正気の不足・・・虚証 ← 補虚：正気を扶ける  
邪気の亢盛・・・実証 ← 瀉実：邪気を祛う

\* もし、この原則を反すれば悪化を招く。《素問》“補瀉反則病益篤”

\* 補瀉の原則はさらに経穴の配合等があって、初めて効果の得られるものである。

(1) 本経補瀉：

臓腑の病変が単一の臓腑・経絡の失調による場合 → 該当経絡の経穴に補瀉

(2) 異経補瀉：

臓腑の病変が複数の臓腑・経絡の失調による場合

→ 該当する複数経絡の経穴に補瀉

\* “俞募” “原絡” “八会” 等の配穴法を結合させ補瀉法を行えば、更に鍼灸治療作用が高まる。

\* “五俞穴” の生克補瀉法等、特殊なものもある。

### 2. 清熱と温寒

：清熱とは熱証に対し“清法”を施し、温寒とは寒証に対し“温法”を施すこと。

清熱 { 実熱 → 熱邪を瀉す：特定の経穴に瀉法を行う、点刺放血、透天涼 等  
虚熱 → 陰を補う(滋陰清熱)：特定の経穴に補法を行う 等

温寒 { 実寒 → 寒邪を瀉す：特定の経穴に瀉法を行う、灸の瀉法 等  
虚寒 → 陽を補う(補陽温寒)：特定の経穴に補法を行う。  
灸の補法、焼山火 等

### 3. 治本と治標・・・[ 東洋医学の治療原則 ] を参照されたし

## 4. 同病異治 と 異病同治

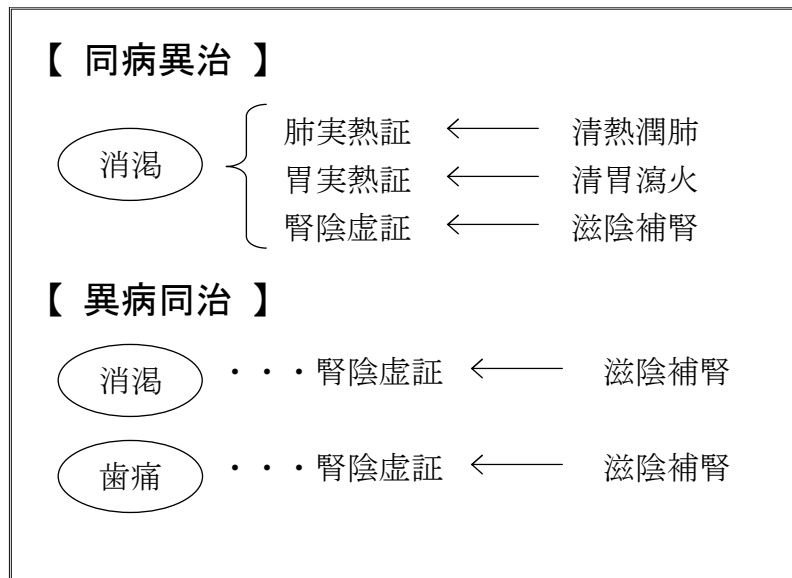
【 同病異治 】 同じ疾患の患者に対し異なる治療を施すこと

【 異病同治 】 異なる疾患の患者に対し(全く)同じ治療を施すこと

\* 中医学全般での意義と鍼灸治療における意義がある。

### [ 中医学全般での意義 ]

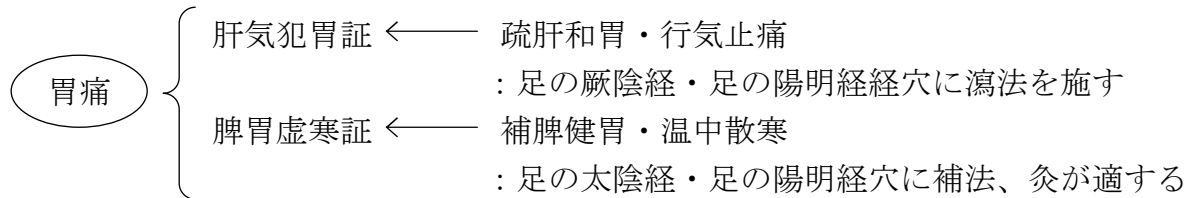
中医学の治療における重点は「証」にある。「証」とは疾病のある一段階における総合的な病理概括である。中医学の治療には弁病論治、弁証論治、対症治療の3つがあるが、その中で弁証論治が治本の役割を果たし根本的な治療を行う意味がある。故に同一の病、例えば「消渴」にしても、肺実熱証型の消渴、胃実熱証型の消渴、腎陰虚証型の消渴では当然それらに対する治法は変わってくる。



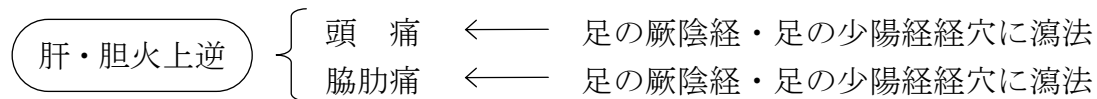
## [ 鍼灸における意義 ]

鍼灸治療においては治法だけではなく、具体的な処方選穴・刺法灸法等を含め考えている。

### 【 同病異治 】



### 【 異病同治 】



## 5. 局部と整体

(1) 局部治療 : 患部に対する治療

例：鼻塞 — 迎香・巨髎  
 眼病 — 睛明・攢竹・瞳子髎・承泣  
 肩痛 — 肩髃・肩髃・肩貞・臑髎

(2) 整体治療 : 疾病の本質に対する治療“弁証論治”

(3) 局部・整体兼治

例：脾虚泄瀉 → 天枢・足三里 ; 三陰交・脾俞 等  
 止泄 (対症)      補脾 (対証)